



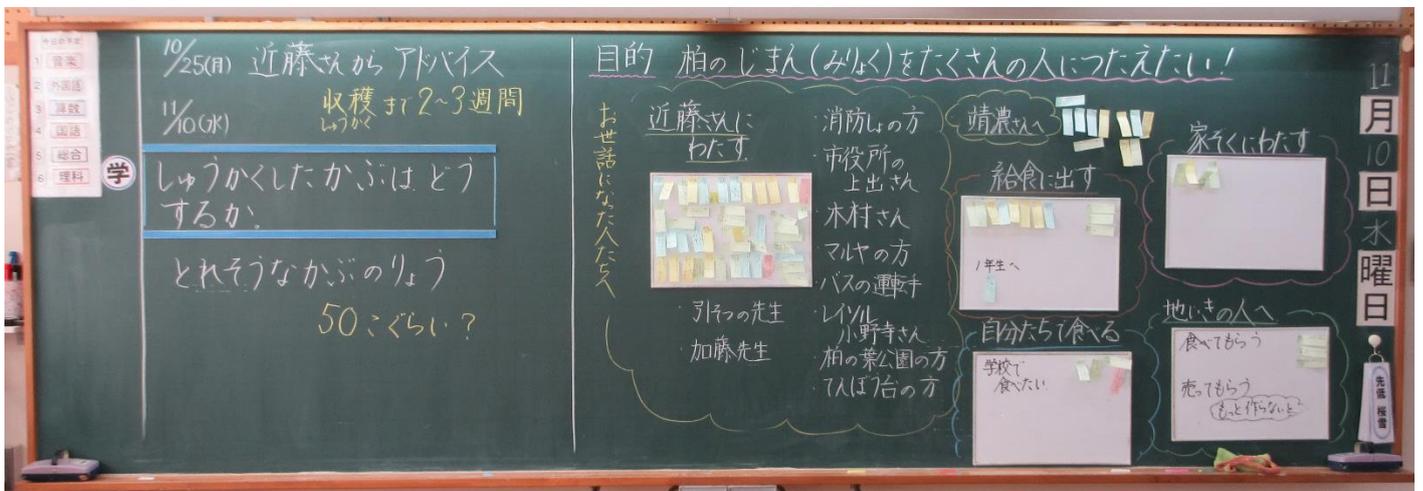
すごいぞ！柏プロジェクト！

2021年11月25日 第7号

もし収穫できたら..そのかぶどうする？

いよいよ3年生の子どもたちが育てたかぶの収穫時期になりました。収穫日に先立ち、子どもたちは「**収穫したかぶをどうするか**」みんなで話し合いました。

実際に収穫できそうなかぶは、畑の面積の半分ほどの量で、子どもたちの計算では、およそ100こ程度と見ています。そのかぶをどうするか、考えをふせんに書き出すと、「**お世話になった方々に渡したい!**」「**みんなでかぶ料理がしたい!**」「**地域の人に渡したい!**、**売りたい!**」「**給食に出したい!**」など、たくさんのアイデアが出てきました。中には、総合でお世話になった方だけでなく、通学路の見守りをしてくだっているパトロールの方たちに食べてほしい、という意見も出て来ました。子どもたちの目が学校から「地域」へも向くようになったことには驚きました。実は、畑作りを始めた7月のときは、子どもたちは「全部自分たちで食べたい」と話していました。これまでの学習で、さまざまな人たちと関わり、支えられながら栽培活動をしてきたことで、子どもたちの心にも大きな変化があったようです。子どもたちの温かい気持ちをうれしく思います。



たくさんの意見の中から、数が限られた**第1号のかぶ(約100個)**をどうするか、さらに話し合いを進めました。各クラスや総合的な学習実行委員会で検討を重ねた結果、「**やはり第1号は、お世話になった人たちに食べてほしい**」ということでもとまりました。

特にお世話になった市役所の方、農家の近藤さん、理科支援員の加藤先生、城川校長先生など、たくさんの方を招いて、試食会をすることに決定しました。今回は、かぶを浅漬けにして、お世話になった方々と3年生の子どもたちみんなで味わいます。総合実行委員を中心に、その会の準備を進めています。



「給食に出したい!」「地域の人に売りたい!」という考えも子どもたちは、あきらめてはいません。ある子は、「この育ち具合ではとても売れない。」と発言していました。3年生の子どもたちは、次のシーズンへのリベンジを考えています。「柏のじまんをたくさんの人につたえたい!」という目標のもと、まだまだ子どもたちの挑戦は続きます。

